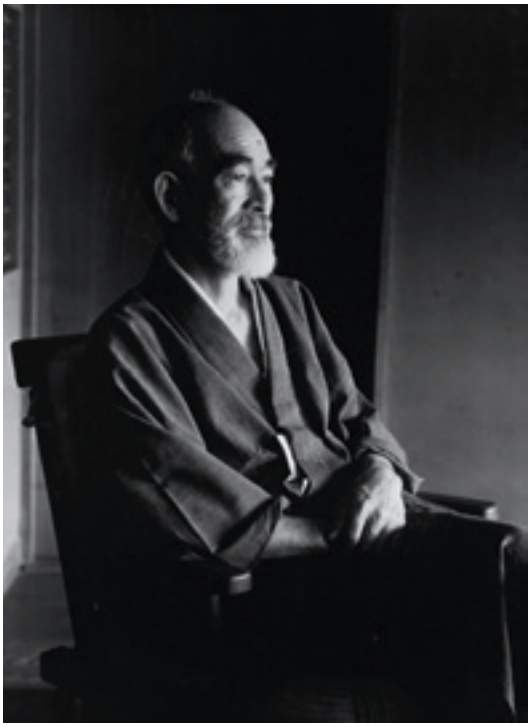
石川県七尾美術館だより

平成22年７月１日発行
編集・発行　石川県七尾美術館

第62号（夏号）



ISHIKAWA
NANAO
ART MUSEUM

開館15周年記念

「生誕100年記念写真展──土門拳の昭和」

①「志賀直哉（小説家）熱海・自宅」昭和26年
②「しんこ細工　東京・浅草雷門」昭和29年
③「赤十字看護婦　看護実習　麻布」昭和13年
④「原爆ドーム」昭和32年

展覧会紹介

開館15周年記念

「生誕一〇〇年記念写真展　土門拳の昭和」

7月31日(土)～9月26日(日)

［会期中無休］

平成22年7月3日(土)～9月26日(日)

休館日については裏表紙をご覧ください

◇第一・第二・第三展示室

●プロローグ●

土門拳（一九〇九～九〇）は、山形県飽海郡酒田町（現、酒田市）に生まれ、7歳で東京へ、9歳で横浜に移住、画家志望の中学時代を過ごし、中学卒業後は職を転々としました。

「土門拳（写真家）セルフポート」昭和38年

土門の作家活動は、昭和10（一九三五）年、26歳で「報道写真」を掲げる集団「日本工房」に入って以来、脳血栓で倒れる同54年まで足かけ45年にわたります。その間の日本は、日中戦争、太平洋戦争、敗戦、戦後復興、高度成長期と、まさに激動の時代でした。土門は「日本と日本人が好き」と宣言し、自分が惹かれた対象を凝視し、物事の本質を捉えようとしました。被写体が何であれ、自らを「報道写真家」として位置づけ、激動の昭和を記録しました。

二〇〇九年は、数々の職業を経て写真家となり、晩年は車椅子で撮影し続けるという波乱の人生を送りながらも、つねに全力で被写体にぶつかり、ドキュメント、人物、古美術、建築、風景、そのいずれにも忘れがたい名作を数多く残した土門の、生誕一〇〇年という節目の年であり、本展はその巡回展となります。

本展では、一人の写真家が自分の生きた時代として撮った「昭和」と、鋭い眼で選び出した「日本の美」を一望にします。また、土門の全仕事を4つのテーマに分けて追うことで、さらに昭和の歩みも浮かび上がってきます。

今回は、撮影した当時のヴィンテージプリントや、未発表作品の他、七尾会場のみの特別展示もありますのでお楽しみください。

◆戦前・戦中の仕事◆（一九三五～四四）

①最近発見された早稲田大学経済学部の卒業アルバムなど、駆け出し時代の仕事

早稲田大学以外での初公開となる、同大学政治経済学部の卒業アルバム写真を紹介します。

「早稲田大学政治経済学部経済科卒業アルバム」昭和11年

また、26歳で名取洋之助主催の「日本工房」に入社し、報道写真の基礎を学んだ土門は、海外に日本の文化を紹介する大判のグラフ雑誌『ＮＩＰＰＯＮ』のために、シャープで力強い戦前のドキュメントの傑作を撮り下ろし、自分のスタイルを明快に打ち出しました。

②文楽

昭和16（一九四一）年夏から足掛け3年、激化する太平洋戦争の中で、土門は文楽の舞台に熱中しました。

大阪と東京の興行に通い、大型カメラで舞台、人形、名人、楽屋などを記録、文楽座も人形も戦火で焼失しましたが、土門が自宅の地下に埋めて戦火から守ったというガラス乾板には、それらが今も鮮鋭に写し留められています。

「文楽　吉田文五郎の左手」昭和16年

③室生寺と仏像写真

昭和14（一九三九）年に初めて訪れて以来、室生寺に通い詰め、第2の故郷となったといわれます。

また、戦中には平安初期の木彫仏に惹かれ、戦時下にも全国を行脚して撮影しました。その仏たちは、まるで生きているようです。

「室生寺金堂 十二神将立像（未神）頭部」昭和16～18年

◆戦後日本の歩みとともに◆（一九四六～六七）

①戦後間もない東京や、「政治の時代」の報道写真

土門は、戦中に国策宣伝の仕事に従事した反省をもとに、戦後日本の現実に取り組み、アマチュア写真家にもリアリズム写真の志向を推奨し、多大な影響を与えました。

高度経済成長に向かう日本の中で、ドキュメント「江東のこども」、砂川・内灘闘争、第二次羽田闘争まで、「政治の時代」の報道写真を撮影しました。

一方、こういった社会情勢の中で、切り捨てられて

いく人々に眼を向け、憤りを感じ、報道写真家としての使命感に燃えて撮り続けたものがありました。

②ヒロシマ

原爆投下13年目、後遺症に苦しむ広島の被爆者を、カメラを手にする人間として使命感に駆られて撮影した渾身のドキュメントです。

目を背けたくなるような現実、その苦しみが忘れ去られないように、この作品群はこれからも人々に語り続けていくのです。

「原爆ドームと元安川」昭和32年

③筑豊のこどもたち

昭和30（一九五五）年、政府の石炭から石油へのエネルギー転換策によって、炭坑労働者は一方的に切り捨てられ、困窮生活に陥りました。土門は同34年の暮れ、閉山させられた筑豊の炭鉱地帯に入り、その悲惨な生活や、極貧の中でもたくましく生きる子どもたちの姿を捉え、炭坑問題を社会に訴えました。

翌年、定価一〇〇円で刊行された写真集『筑豊の子どもたち』は大きな反響を呼び、10万部を売り上げたのでした。

「るみえちゃんとさゆりちゃん」昭和34年

◆風貌◆（一九三六～六七）

クローズアップで迫る人物写真は戦前から定評があり、彫刻家の高村光太郎は「土門拳のレンズは人や物を底までえぐる」と称賛、その執拗な撮影で、画家・梅原龍三郎を怒らせたというエピソードは有名です。

土門は自分が撮りたい人物の名を襖や巻紙に墨書し、室内に貼り付けました。構想10年、最終的には85人を収録した『風貌』を昭和28（一九五三）年に出版し、話題を呼びました。

今回は、土門家に残されていた撮影当時のヴィンテージプリント（当巡回展初公開）を含めた人物写真の傑作を紹介します。

「梅原龍三郎（洋画家）東京・麻布・自宅」昭和16年

◆日本の美◆（一九六一～七九）カラー

①古寺巡礼

昭和34（一九五九）年、脳出血の軽い発作に襲われたのち、35ミリカメラをあきらめ、大型カメラ、カラーフィルムで撮影を始め、再度倒れて車椅子での撮影になってからも完成を望み、写真集『古寺巡礼』（A3判の桐箱入り、全5集）が昭和38年から50年に刊行されました。

土門が選ぶ基準は「豪壮で強い」「個性的で美しい」ことであり、その土門が自らの眼で選んで撮影し編纂した、仏像や建築、庭園などは、日本の美術史であり、日本文化の力強さが伝わってきます。

「唐招提寺金堂　千手観音立像　左脇千手詳細」昭和38年

②日本の美

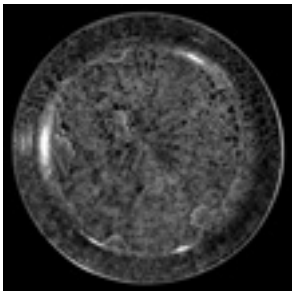
やきもの、古建築の細部や古九谷などの古美術品と、土門の眼が切り取った日本の美、風景を紹介します。

土門にとって「風景」はあくまでも撮影合間の「余録」でした。しかし、車椅子による撮影を始めてからは、野の花の生命力や風情に惹かれ、風景写真を撮ることを喜びとするようになりました。

「雪の室生寺五重塔」昭和53年

《特別展示》

開館15周年を記念して、七尾会場のみ野々村仁清作の国宝「色絵雉香炉」（石川県立美術館蔵）を土門が昭和38（一九六三）年に撮影した作品や、土門が撮影した古九谷作品と共に、その被写体となった古九谷の名品3点（何れも石川県立美術館蔵）を特別展示します。



「古九谷　青手桜花散らし更紗文平鉢」昭和38年

◆「激動日本を捉えた 写真家・土門拳」映像◆

制作／㈶土門拳記念館、㈱クレヴィス（平成21年制作）
上映時間／約15分

土門の長女で、財団法人土門拳記念館の館長でもある池田真魚氏監修の映像で、氏の肉声も収録された貴重なものです。

◇観　覧　料

	個人	団体
一般	800円	700円
大高生	350円	300円

※中学生以下無料、団体は20名以上です。

土門拳展関連事業のお知らせ

①ギャラリートーク（要観覧券）

当館学芸員による展示作品解説。名作誕生秘話や感動エピソードなど「ここだけの話が聞けます。

日　時●8月22日（日）　10時～11時15分
定　員●20名（高校生以上）

②写真ワークショップ

写真家の橋本義則氏（七尾美術作家協会会員）を講師に迎え、流行のフォト俳句に挑戦。山の寺寺院群を訪ね「これ！」と感じた風物を撮影し、その画像に俳句を添えます。完成作品は当館エントランスで展示します。

（協力…写団のと、八﨑秀峰氏、鵬学園ボランティアクラブ、㈱ニコン）

持ち物●参加費、筆記用具、昼食など

※デジタルカメラ（貸出可能。数に限りがありますので、お持ちの方はご持参ください。）

子どもの部　子どもアーティスト誕生IX！

Ⓐ夏の思い出♪フォト俳句

日　時●8月8日（日）　9時～15時30分
定　員●10名（小・中学生）
※小学2年生以下は要保護者同伴。
参加費●500円（印画紙、ラミネート代含む）
作品展●8月12日（木）～29日（日）

一般の部

Ⓑふと目をとめて♪フォト俳句

日　時●9月5日（日）　9時～15時30分
定　員●16名（高校生以上）
参加費●800円（印画紙、額代含む）
※別途観覧券が必要です。
作品展●9月9日（木）～26日（日）

①・②共通

申込●七尾美術館　☎0767(53)1500
7月15日（木）　9時～
友の会会員先行受付（①②一般の部）
7月4日（日）　9時～
締切●①定員数に達し次第締切
②Ⓐ7月31日（土）Ⓑ8月31日（火）

第69回七尾港まつり協賛
「池田コレクション名品展」
7月3日(土)～25日(日)

◇第一・第二展示室

当館は平成7年4月に開館し、本年で15周年を迎えることができました。

昨今、長引く不況の影響などで美術館や博物館には厳しい時代が続いています。その中で当館が開館以来、現在まで活動を継続しえたのも、多くの方々のご協力・ご配慮あってのことであり、ここに改めて御礼を申し上げる次第です。

さて、当館の開館には様々な目的があったのですが、中でも大きなウエイトを占めていたのが、「池田コレクション」の所蔵・展示場所としての役割でした。

「池田コレクション」とは、七尾市名誉市民であった実業家・池田文夫氏（一九〇七～八七）が生前に蒐集した美術品コレクションのことです。

氏は七尾市出身で、岐阜県大垣市を拠点に中部地方きっての経済人として活躍する一方で、美術品に大きな愛着を持ち、生涯にわたって多くの作品を蒐集しました。

そして氏の没後、昭和63年にその蒐集品より陶磁器や日本画など日本美術の作品計一二五点が、ご遺族のご好意により七尾市に寄附されました。しかし当時七尾市にはそれらの作品を所蔵・展示する施設が存在しなかったことから、美術館建設の話がスタート、そして当館が建設されることとなったのです。

その寄附された作品が「池田コレクション」で、当館所蔵品の中核に位置付けられて、開館以後「所蔵品展」などで定期的に紹介してきました。その間、追加のご寄附などもあり現在コレクションは合計一七〇点となっています。

本展ではその「池田コレクション」より、様々なジャンルの作品四九点を紹介します。

《主な出品作品》

①日本画「蓬莱山図」

菱田春草（一八七三～一九一一）作

不老不死の仙人が住むという伝説の島・蓬莱山。松竹梅や鶴亀とともに、祝儀の象徴としても登場します。この作品の蓬莱山は淡いタッチ・色調で統一されてとても神秘的な雰囲気を漂わせ、山の頂上に松、霧にかすむ山の中腹には鶴の群れがそれぞれ描かれています。

菱田春草は長野県出身で、岡倉天心に従って日本美術院結成に参加、横山大観らと共に輪郭線を描かない彩色画「朦朧体」を試みるなど、明治日本画の新しい表現を追求しました。

②陶磁器「織部舟人物図茶碗」

江戸時代（一七世紀）制作

この作品のような平らな形状の茶碗を平茶碗といい、夏によく使用されます。表面には小船と船頭が軽快な筆致で描かれ、めいっぱいそり返った帆や渦を巻くロープなどが、強い風を受けて全力疾走する船の様子をよく表しています。

織部焼は桃山～江戸時代前期頃にかけて、現在の岐阜県美濃地方で制作されたやきもので、自由

なデザインが大きな特徴です。制作技法や作風などにより幾種類かに分類されており、この作品の場合は「志野織部」と呼ばれます。

③陶磁器「色絵布袋山水人物図硯箱」

初代徳田八十吉（一八七三～一九五六）作

箱・硯・水滴・筆置・筆筒と、筆先以外は全てやきもの（九谷焼）の硯箱セットです。箱表には布袋、蓋裏と身の部分には山水風景と高士が描かれるのをはじめ、全ての道具の実に細かなところまで、絵や文様が緻密なタッチで見事に表されています。

初代徳田八十吉は石川県小松市出身で、古九谷や吉田屋の再興を志し、九谷焼における色釉の調合技法を研究して新しい釉薬を開発、また卓越した上絵付で独自の作風を確立しました。

◇観覧料

	個人	団体
一般	350円	280円
大高生	280円	220円

※中学生以下無料・団体は20名以上です。

「モントレー・ジャズ・フェスティバル・ポスター展」

7月21日(水)～25日(日)

◇第三展示室

七尾市の姉妹都市であるアメリカ・カリフォルニア州モントレー市は、世界三大ジャズフェスティバルの一つである「モントレー・ジャズ・フェスティバル（MJF）」の開催地として有名です。

そのモントレー市と七尾市和倉温泉観光協会が、ジャズを通しての友好を目的として、平成元年に「モントレー・ジャズ・フェスティバル イン 能登」をスタートさせ、今年7月31日(土)の開催で第22回目を迎えます。当館ではこれにあわせ、モントレー市から七尾市・和倉温泉観光協会・和倉温泉旅館協同組合へ寄贈された、MJFポスター50枚を展示・紹介します。

このポスターは、一九六三年から九五年までの間にアメリカの作家EARL NEWMAN氏が、著名なジャズ・プレイヤーの演奏する姿やトランペットなどをモチーフに、リトグラフの技法で制作したものです。

ジャズの本場ならではの躍動感溢れる表現をお楽しみください。

※観覧料は「池田コレクション名品展」と共通料金です。

1992年「35th Jazz Greats」

当館所蔵長谷川等伯作品展示情報

今年は「長谷川等伯没後四〇〇年」。その記念として当館では、次の予定で所蔵の等伯作品を特別展示します。

①「愛宕権現図」

展示期間　7月3日(土)～24日(日)

（「池田コレクション名品展」内で展示）

②「善女龍王図」

展示期間　10月2日(土)～25日(日)

（「秋の所蔵品展」内で展示）

※以降の展示予定は後日改めてお知らせします。

また、石川県立美術館で開催予定の秋季展覧会**「加越能の美術－縄文から江戸時代までの名宝－」**でも、当館所蔵を含む等伯作品の展示が予定されています。

①「愛宕権現図」

②「達磨図」（七尾市・龍門寺蔵）

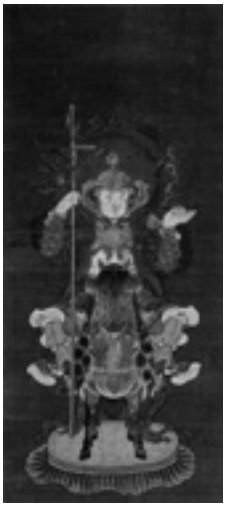
展示期間　9月11日(土)～10月24日(日)

会　　場　石川県立美術館（金沢市出羽町二－一）

※展示内容については変更の可能性があります。

また、同展についてのお問い合わせは

石川県立美術館☎〇七六－二三一－七五八〇まで



「愛宕権現図」

市民ギャラリー催し物案内

第15回　七尾日創展

無料入場

7月8日(木)～11(日)
但し、初日は午後1時から　最終日は午後4時まで

公募により県内外から出品された日本画を中心とする絵画約60点を展示します。風景、花鳥、人物、具象から抽象まで、さまざまな個性あふれる作品をお楽しみください。

主　催　日創会(代表　丹羽俊夫)
連絡先　三宅厚史　☎0767(77)1368

長谷川等伯没後400年記念

第16回 七尾美術作家協会展

無料入場

7月17日(土)～19日(月・祝)
最終日は午後4時まで

郷土が生んだ画聖長谷川等伯の没後400年を記念し、会員98人が日本画・洋画・彫塑・工芸・書・写真の6部門にわたり、近作を展示、発表します。4月に開催した等伯子ども写生大会の優秀作品も併設展示します。

主　催　七尾美術作家協会
連絡先　加地 求(洋画)　☎0767(52)1613

アートホール催し物案内

Little Pianist Concert Vol.12

無料入場

7月4日(日)　開演　午後1時30分

緊張するけど、楽しんで演奏できるといいな。小学2年生～6?才までの門下生による、ピアノ発表会です。さまざまな音楽ジャンルの演奏をお聴きください。

主　催　川部真紀門下生
連絡先　川部真紀　☎0767(57)1641

第8回石川県NOTOピアノコンクール課題曲による公開レッスン

7月11(日)　開演　午後1時

8月7日(土)、8日(日)に行われるピアノコンクールの課題曲による公開レッスンです。講師は桐朋学園大学付属音楽教室講師の辻井雅子先生(同コンクール実行委員長)です。

入場料　1,500円
主　催　石川県NOTOピアノコンクール実行委員会
連絡先　同実行委員会事務局(ミヤコ音楽堂内)
☎0767(53)0001

ヤマハジュニアエレクトーンコンクール&エレクトーンステージ2010 ミヤコ音楽堂大会

無料入場

7月24日(土)　開演　午後6時

小学生から高校生までのエレクトーンを学ぶ子どもたちが出場するヤマハエレクトーンイベントです。クラシック曲からポップス曲までソロやアンサンブルで演奏します。熱いステージをお楽しみください。

主催・連絡先　ミヤコ音楽堂　☎0767(53)0001

ピティナ・ピアノステップ

無料入場

7月25日(日)　午前10時(予定)

この度、ピティナのと七尾ステーションが誕生しました。ステップは子どもから大人まで、どなたでもご参加いただけます。日頃の力試し、コンクールのリハーサルにもご活用ください。記念すべきステージにお誘い合わせの上、お越しください。

主　催　ピティナのと七尾ステーション
連絡先　㈱開進堂楽器　楽器センター金沢内
☎076(221)1544

第1回大森結城クラシックバレエ発表会

無料入場

8月1日(日)　開演　午後2時

当スタジオも、3年目を迎えることとなりました。子どもたちの日頃の練習成果を、発表したいと思います。皆様もご一緒に楽しんでもらえたら、うれしいです。ご来場をお待ちしております。

主催・連絡先　大森結城クラシックバレエスタジオ
☎0767(53)0469

佐藤有希子門下生ピアノ発表会

無料入場

8月22日(日)　開演　午後1時30分

日頃の練習の成果を、ピアノソロ・ピアノ連弾で披露する発表会です。小さなピアニストたちが奏でる音を、どうぞお聴きください。

主　催　佐藤有希子門下生
連絡先　佐藤有希子　☎0767(54)0955

青山バレエファミリーコンサート

無料入場

8月29日(日)　開演　午後2時

日頃の練習の成果を発表します。少人数ですが、舞台いっぱい可愛いオーラ満開で踊りますので、頑張る子どもたちを是非見に来てください。

主　催　青山バレエ
連絡先　津田　☎090-8261-6792

七尾市健老大学講座

音楽鑑賞と等伯没後400年記念特別講座

9月14日(火)　開演　午後1時30分

ピアノやフルートによる音楽鑑賞と、等伯没後400年を記念し、等伯の魅力についての講演をおこないます。市内在住の高齢者であれば、どなたでもご参加できますので、お気軽にお問い合わせください。

受講料　400円
主催・連絡先　七尾市教育委員会　生涯学習課
☎0767(68)6595

開館15周年・等伯没後400年記念

第11回　石川県七尾美術館　友の会鑑賞の旅を終えて

今回は、〝スペシャル企画〟京都国立博物館での没後400年記念特別展「長谷川等伯」の見学をメインに『相國寺』『京都御所』など京都方面へ。4月17日、早朝5時、集合場所付近は真っ暗で雨も降っています。天気の回復を祈りつつ出発！

午前10時、ほぼ予定時刻ぴったりに到着しましたが、博物館前はすでに前庭の植栽に沿うように入館待ちの長蛇の列！

同館山本美術室長と毎日新聞社本展担当佐々木さんが出迎えてくださり、期待に高鳴る胸を抑えつつ館内へ。

思わず「がんばって！」と声をかけたくなる当館所蔵の等伯作品、門外不出「千利休像」、圧巻の「仏涅槃図」、いつ見ても素晴らしい「松林図屏風」、まさに『今世紀最大の大回顧展』です。

なんと当日、毎日新聞社から〝等伯の郷里七尾から団体鑑賞〟ということで取材依頼が…！代表でインタビューを受けてくださった会員の方々、ありがとうございました。

先斗町の料理屋さんで京懐石をいただいた後は、相國寺へ。係の方のご案内で「鳴き龍」で有名な『法堂』見学、次に『方丈』へ。襖絵と新緑の庭園が気持ちを落ち着かせてくれます。

しばらく入場待ち…

相國寺の庭園

ゆったり気分をもう少し味わいたかった…というのが正直なところですが、最後の見学場所『京都御所』は入場時間厳守です。

予定時間どおり受付し、60分ガイドツアー開始。係の方はユーモアを交えながら建築物の説明や歴史的背景を語ってくださり、青空の広がる中、気持ちの良い、有意義な御所参観となりました。

途中、交通渋滞もあり余裕がなく小走りで移動…という場面もあり恐縮しましたが、参加者皆様のご協力のもと、「春の京都」を満喫する楽しい旅となりました。どうもありがとうございました。

最後に新聞社のインタビューに答えてくださった、深浦孝子さんの素敵なコメントを紹介いたします。

『これだけ大勢の人をひきつける等伯の実力を実感しました。まさに七尾が生んだ宝です。』

京都国立博物館にて

友の会美術講座「志野焼入門」開催報告

今年1月17日開催の本講座は、定員数12名が参加。澤﨑俊治先生と奥様が参加者一人ひとりのテーブルをまわり丁寧に指導してくださいました。制作後、約40日間の乾燥期間を経て、2月に1回目の窯入れ（電気式窯）、次は3月に2回目の窯入れ（灯油式窯）、焼成で、ようやく完成！少々時間がかかりましたが、その分愛着たっぷりの作品となったのではないでしょうか？先生は常に受講生の作品を最優先、窯内の配置から仕上りまで気にかけてくださいました。

お陰様でどの作品も志野焼独特のやさしい色、風合いが活きていて素晴らしい仕上がり♪

澤﨑先生、奥様へ心よりお礼申し上げます。

仕上がりが楽しみ…

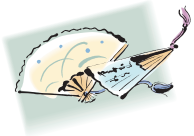
どれも素敵です♪

～七尾美術館　開館15周年　記念イベント開催報告～

平成22年4月29、30日の2日間、15年の感謝を込めて、先着150名様を対象にスピードくじを実施しました。

特賞を引き当てられたのは、かほく市高松町から、ご家族で来られた「藤井一行」様。150本中、なんと143番目の大当たりでした。ほがらかで、ユーモアたっぷりの藤井さんは「良い思い出ができた」と喜んでくださいました。

「あら！美術館でくじびき？」「特賞が当たりますように！」くじを選ぶ表情は、皆さん楽しそうで、いい笑顔。4等賞の皆さんも、賞品の喫茶補助券でティータイムをお楽しみくださいました。



これからの展覧会予定

◆第１・２展示室

「秋の所蔵品展」

10月2日(土)～24日(日)

「善女龍王図」長谷川信春（等伯）

当館所蔵品より２テーマで作品を紹介します。

テーマ①「神・仏・仙人たち」では、古来より信仰や崇敬の対象として様々な形で表現されてきた、神仏や仙人をモチーフにした絵画や彫刻などを紹介します。

また「等伯没後 400 年記念」として、長谷川信春（等伯）筆「善女龍王図」を特別展示予定です。

テーマ②「赤い作品色いろ」では、数ある色の中でも特に情熱的で「アツい」色である「赤」を効果的に使用した作品を、絵画や工芸などを中心に紹介します。

◆第１・２・３展示室

「2010 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」

11月6日(土)～12月5日(日)　会期中無休

毎年、ボローニャ市で開催される絵本原画コンクールには世界中から応募があります。本展では同コンクールより20カ国87名の個性豊かな入選作品を紹介します。また、特別展示は2009年ブラティスラヴァ世界絵本原画展において、グランプリを受賞したジョセップ・アントニ・タシエス・ペネージャ（スペイン）です。印刷された絵本からは感じることのできない原画の魅力をお楽しみください。会期中、絵本アニメ上映会や絵本作り子どもワークショップなども開催します。

コンスタンツェ・フォン・キッツィング（ドイツ）

●喫茶室からのお知らせ●

石川県七尾美術館開館15周年記念　15(いちご)メニュー

●崎山いちごのみるくパフェ　500円

- 七尾特産いちごを使用、専門店のジェラート
- やさしい味のミルクプリン
- 意外と合います！かわらせんべい、そして甘さ控えめのつぶあんも入ってます♪

●いちごソーダ　350円

「シュワ～」とすっきりさわやかな味。

●トーストセット＋手づくりいちごジャム　650円

パン屋さんの厚切りトーストに果実がたっぷり入ったこだわりのジャムをつけて美味しさ2倍！

パフェとソーダは9月26日(土門拳展会期中)までの期間限定！お早めに♪

プレミアム・パスポート　PREMIUM PASS　子育てにやさしい店®

割引、プレゼントなど特典いろいろ！
ぜひ当館でもご利用ください。

飛行機……能登空港から能登有料道路利用約45分
車……金沢から能登有料道路利用約１時間15分
タクシー…JR七尾駅から約５分
徒歩……JR七尾駅から約20分
市内循環バスまりん号
……JR七尾駅前「ミナ.クル」ビル裏バス停から西回り「七尾美術館前」下車
ななおコミュニティバスぐるっと７
……JR七尾駅前５番乗り場から西コース「小丸山台１丁目」下車

休館日のお知らせ

（７月～９月）

- ◆７月　1,2,5,12,20,26～30
- ◆８月　無休
- ◆９月　27～30

◎次号・第63号（秋号）は10月1日発行予定です。

〒926-0855　石川県七尾市小丸山台1丁目1番地
TEL(0767)53-1500／FAX(0767)53-6262
http://www.city.nanao.ishikawa.jp/nanabi/